

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価  (2月13日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○「自立と社会参加」をめざし、子どもたちが主体的意欲的になる授業を実践する  ○授業改善を組織的に行之、専門性の向上を図る	①評価規準に着目し子どもの姿から振り返ることで、子どもの目指す姿を明確にした授業づくりにつなげる  ②組織的な授業改善に向け、授業公開・授業検討会・学習会等をとおして、専門性の維持向上を図る	①授業公開や改善検討会の視点を子どもの姿にあて、評価規準（表出方法や行動）に基づいて振り返りを行うことで、子どもの学びの過程や実態を捉え直し、目標を明確にした授業づくりにつなげる  ②一人一回の授業公開を実施するとともに、授業検討チームによる授業検討会や研修会を通し教員による協働的学び合いを進め、授業について教員が学ぶ機会を設定する	①子どもの達成時の表出方法や行動に着目した参観や改善検討会を通して、子どもの学びの過程や実態を捉え直すことができたか 学習内容表を元にした授業を行えたか改善点を話し合い、次年度に引継ぐことができたか ②授業検討チームによる授業検討会がスムーズに進められたか。また、学び合いを深める研修会の設定ができたか	①授業の成り立ちシートや授業参観シートに評価規準の項目を設け意識できるようにしたが、評価規準の書き方や改善検討会の進め方が難しいとの反省があがった。 ②授業公開、および検討会は計画通り進行できた。研修会は、さがちゅうゼミ7回、公開研修会1回、授業改善研修会4回、他部門紹介研修会1回、教材教具展示を実施した。	①「評価の規準」の記入について具体的に例を示し、改善検討会については、進め方を①観察したこと②分析の2段階にして行うよう整理し、学部会で周知することとした。 ②専門性の維持継承は大きな課題。学習会や研修会、授業研究を行いながら、引きつづき専門性の向上を図る。	授業改善が短時間で効果的に実施されている。  成果の蓄積についても大切にしたい。  授業の工夫シートの掲示について、部門ごとの区分け等するとより見やすくなるのでは。	①評価規準に基づくことで、子どもたちの行動に着目しやすくなり、支援をより具体的に考えられるようになった。評価規準の捉えについてはまちまちな面があり改善が必要。 ②学習会や研修会、授業研究、教員間で子どもの実態把握と指導法等の情報共有を丁寧に行うことで専門性の向上を図ることができた。今後も専門性の維持継承が課題である。	①引き続き評価規準に着目した振り返りから、目標の見直しや次の目標に繋げていく授業づくりに取り組むとともに、年度始めに評価規準の立て方を全体で確認する。 ②チームによる授業検討会の回数や進め方を検討調整して、さらに充実した教員間の学び合いになるようを実施する。
2	幼児・児童・生徒指導・支援	○ICTによる教育活動など、一人ひとりのニーズに応じた教育を実践する  ○アセスメントを充実させ、専門性の高い支援を実現する	①ICTを利活用した学習活動やオンライン授業により、個々の教育的ニーズに応じた教育を実践し、学習保障と学習支援の充実を図る  ②アセスメントツールの活用を促進し、子どもの特性を客観的に評価し、個別教育計画や教育活動につなげる	①子ども自身がICT機器を使って学びを広げるために、個々に応じたICT活用の実践に取り組むとともに、それを共有し検証を行う  ②各学部部門において適切にアセスメントツールを活用し、的確な実態把握を行う	①子どもに応じたICT活用の実践に取り組み、実践の共有と検証を行うことができたか  ②アセスメントツールを活用し的確な実態把握ができたか、またアセスメント結果を活用し、個別教育計画の目標を設定することや日々の支援に役立てることができたか	①ICT機器活用状況アンケートを実施し各学部の活用状況を把握した。iPadの活用は広まっているが台数が足りない、また視線入力装置、アレクサについては活用する子どもが少ないのが現状。 ②小学部では太田ステージ評価MEPA-Rを実施し、実態把握をするとともに個別教育計画作成や授業づくり等に役立てた。	①視線入力装置、アレクサについては、まず教員が機能や操作方法等を知るために、体験研修会等を行っていく。  ②太田ステージ評価の研修は希望者のみの受講だったため、学部教員全員で受講し、実態把握や授業づくり等に活かしていく。	①子どもの主体性を引き出すツールの一つとして取り組みを継続してほしい。  ②引き続き、丁寧なアセスメントとそれを根拠とした指導をしていきたい。	①視線入力装置等の研修会を行った。また、個別の相談に応じた。いろいろなケースの取り組みがあったが、全体で共有できなかったことが課題としてあげられる。 ②太田ステージ評価、MEPA-Rを実施し実態把握をすることで個別教育計画作成や授業づくりに役立てるとともに授業改善検討会等に役立てた。	①個々のICT活用の実践を全体で共有し、そこから上がった課題を検証していくと共に、パワーポイント教材の提案やニーズに応じた研修会を計画していく。 ②個別教育計画や授業づくり等に生かすとともに年間授業計画や研究授業、授業公開等の作成・授業改善に役立てるようになる。
3	進路指導・支援	○子どもたち一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた進路指導・支援を行う  ○将来を見据えた地域生活充実のため、障害者スポーツを促進する	①子どもたちの将来の生活を見据えた、進路指導・支援を推進する  ②障害者スポーツを地域に発信するとともに、子どもたちの余暇活動の体験機会を充実させる	①個別の支援計画策定会議、事業所見学会、進路説明会、進路学習、実習、面談等様々な場面でオンラインをより有効に活用するとともに従来の方法との調和・統合も模索していく  ②パラスポーツ推進プロジェクトを中心に、地域と協働した生涯にわたり持続可能なパラスポーツの取組を行う	①各場面でオンラインを含め有効な方法での実施を推進することができたか  ②地域からの参加者を含めたパラスポーツ教室や大会の実施ができたか	①オンラインで外部とつないでの学習や実習、説明会や面談を実施し、定着しつつある。  ②8月にパラスポーツ体験会を実施した。本校の児童・生徒、保護者に加え地区民生委員の方や支援級の教員が参加した。	①従来の方法の利点も活かしつつ、必要に応じて組み合わせながら進めていく必要がある。 ②プロサッカーの試合でチラシ配布や関係機関での掲示を依頼できた。さらなる広報を行い、地域の方が参加できるようにしていく。	①就業能力があっても、通勤などに課題がある方がいる。オンラインでの学習、実習はそのような方の将来に結び付く取り組みである。 ②パラスポーツイベントの、サイクルをすること、周知の工夫を考えていきたい。	①オンラインと従来の参集方法両方を活用した進路指導・支援を実施することができた。  ②11月に「ぎんがポッチャ大会」を開催した。本校の生徒、保護者に加え、一般の方や相模田名高校の生徒、本校の卒業生などの参加者で大会を行うことができた。	①今年度取組始めることができた生徒の進路学習におけるオンライン活用の場面を広げていく。 ②支援していただける保護者や地域の人たちとの関わりを増やし、障害者スポーツを学校開放事業で行うなどして、地域とともに運営できる体制を整えていく。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月13日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○地域社会と連携しながら、社会性を育む	①新しい生活様式を踏まえたうえで地域と協働して、地域資源を活かした教育活動や交流及び共同学習を推進することで幼児児童生徒の社会性の育成をめざす	①新しい生活様式を踏まえ、地域の作品展への参加や交流デイの開催方法の工夫、地域学校との交流等、地域との協働の方法を検討し、前年度と比較し一歩前進した取り組みを考える	①地域との協働の方法を検討し、前年度と比較し一歩前進した取り組みを計画・実施できたか	①相模原市総合防災訓練にボランティアとして参加した。パンフレット配付を行い、地域行事に貢献することができた。	①ボランティアとして参加することは、とても良い経験であるので、来年度も継続して行く。	①防災訓練等にボランティア等役割を持って参加することはインクルーシブの原点といえる。	①来年度は、相模原市が九都県合同防災訓練の会場となる予定である。どのように参加するのかを検討している。	①ボランティアとして参加すること、防災フェアでポスター等を展示できるかを検討する。
		○相模原地区におけるインクルーシブ教育を推進する	②感染予防対策等を徹底しながら、地域の関係機関との連携を図り、巡回相談やネットワーク会議等への参加をとおして、センター的機能の充実を図る	②感染症対策を徹底しながら地域の各種学校等と連携を継続し巡回相談や協議会・研究会にオンライン等も活用していく 地域センター推進協議会の幹事校として、県全体としての動向を把握し、今後の方向性を探り、そこで得たものを、相模原地区の各学校・施設に還元していく	②カフェをオープンすることができたか、地域の方とカフェやパン販売を通して交流することができたか	①6月の地域交流部会でのアドバイをもとに地域への宣伝、コーヒーの提供方法についてプロジェクトチームで話し合った。 ②巡回相談については、相手校と相談を密にし、短時間での訪問とした。また、午前中に訪問した場合は、午後にオンラインでケース会を行った。 地域センター推進協議会の幹事としてブロック会を運営した。アンケート調査等を活用し、ブロック校の現状を調査し、テーマを決め話し合いを進めた。	①パン販売時にコーヒーを試飲という形で提供していく。 学校周辺地域にチラシを配付する。  ②短時間の巡回でも十分な支援方法の検討が相手校と一緒にできるように連携を密にしていく。 地域センター推進協議会については、高等学校のニーズを知る機会を設定している。地域においてセンター的機能を発揮するために活用する方法を今後探る必要がある。	②巡回相談の内容について、学習場面での課題に限らず、摂食や食具についてのアドバイをしてもらえるとよい。	①地域との交流を図るためにどのようにカフェを運営していくかを検討していく必要がある。	②年度のはじめを中心にセンター的機能についてPRする場を積極的に作るようにする。感染症対策については必要に応じて適宜相手校と相談していく。
5	学校管理 学校運営	○信頼と期待に応える学校づくりを推進する	①コロナ禍で不足している学校の様子を保護者に発信することで、保護者の信頼と学校教育への理解を進める	①授業参観の実施、学年だよりの充実等で保護者への情報発信を充実させるとともに、保護者向けの学習会や勉強会、講演会を行う	①授業参観の実施や学校だよりによる情報発信をすることができたか、また保護者が求める学習会や勉強会、講演会を実施することができたか	①1日各エリア3家庭の授業参観を実施し、保護者が子どもの学習の様子を見ることができる機会を設けた。	①今後は状況を見ながら広げていけるとよい。	②カフェプロジェクトについては、着地点を明確にしていける必要がある。	①1日各エリア3家庭とすることで、保護者全員が希望した日に子どもの学習の様子を見ることができた。	①今後は各家庭2名までの参加等、状況を確認しながら希望者全員が参加できるようにしていく。
		○安心して安全な教育環境の整備に取り組む	②学校が直面する課題について、2つのプロジェクトチームを中心に、組織的に課題解決を図る	②パラスポーツ推進プロジェクトとカフェプロジェクトについて学校運営協議会を活用して、目標に即した具体的な取組を行う	②2つのプロジェクトについてそれぞれ、具体的な成果をあげることができたか	②3進路指導・支援4地域等との協働に記載	②3進路指導・支援4地域等との協働に記載	③不審者対応訓練について、不審者役の意見を聴くなど、振り返りと改善をしていってほしい。	③課業中に不審者役を立てての不審者対応訓練が実施できた。また、保護者参加型の訓練を増やしたことで、校内だけでなく保護者の防災意識が高まった。	③防災宿泊、不審者対応含め、より実践的な訓練に取り組む。また、学校安全計画と危機管理マニュアルの見直しと共に、学校全体で共有できる体制をつくる。
		○現実的な防災体制を整備する	③現実的な防災について、情勢に合わせた方法で実践を行う	③社会情勢に合わせながら、年1回は全校実施での避難訓練を実施、実際の避難活動も併せて取り組んでいく、防災宿泊訓練を継続実施する	③社会情勢に合った、より現実的な防災訓練、防災宿泊訓練を実施することができたか	③9月2日に1年生対象に保護者引取り訓練を実施。10月の避難訓練は全校実施の予定で計画している。段ボールベッド等の防災物資を追加購入した。	④職員会議が書面開催のため、テーマの提示やアンケートの回収はできなかったが、内容を深めるには至っていない。	④書面での研修に加え、1月には集合式の不祥事防止研修会を開催することができた。	④書面での研修に加え、1月には集合式の不祥事防止研修会を開催することができた。	④定期的な研修会の継続と実効性のある取り組みを工夫していく必要がある。
		○不祥事防止の徹底を図る	④不祥事防止に向けた取組を継続することで発生を防ぐ	④不祥事防止会議での検討と不祥事防止研修会を継続することで教職員の綱紀保持を行う	④不祥事防止会議での検討と定期的な不祥事防止研修会を実施することができたか	④職員会議の際に不祥事防止研修会を継続実施した。	⑤業務量の軽減、一部の教員に負担がかかっていること、教員不足等課題が多くある。	⑤人手不足もあり業務改善を進めることはできていない。	⑤抜本的な改革が必要と考える。	
		○教職員の働き方改革を推進する	⑤会議のもち方や業務の進め方の改善をとおして、教職員の働き方改革を推進する	⑤退勤時間のルール継続とともに、働き方改革の必要性を全教員が意識し、他校の実践等を参考に業務改善の方法やアイデアを共有し実践する	⑤教職員の働き方改革を意識した具体的な業務改善を実践することができたか	⑤退勤時間の提示は継続してきたが、守ることができない日が2学期以降増えてきた。				